



つき いろ み
月の色がいろいろに見えるのはなぜ

そら ひく つき あか み
空に低くかかる月は、赤っぽく見える

つき よる そら いろ あおしろ いろ ひかし そら にし
 月が夜の空にかがやく色は、ふつう、青白い色をしています。ところが、東の空や西の
 そら ひく つき あか きいろ み
 空などの、低いところにある月は、赤っぽかったり、黄色く見えるときがあります。

くうきちゆう こま すい き たいよう あお ひかり すい き
 空気中には、細かいちりや水じょう気などがあり、太陽の青い光がちりや水じょう気
 あ さんらん あか ちか いろ おお のこ あか いろ あお いろ ひかり はちょう なが
 当たって散乱し、赤に近い色が多く残ります。赤い色は青い色にくらべて、光の波長が長
 さんらん せいしつ
 く、散乱しにくい性質をもっています。

つき ひかし にし そら つき じょうくう とお ひかり とお
 月が東や西の空にあるときは、月が上空にあるときよりも遠くにあるため、光が通って
 くうき そう あつ あお ひかり さんらん つき あか
 くる空気の層がとても厚いのです。ですから、青い光はよけい散乱し、月は赤っぽかった
 きいろ み
 り、黄色っぽかったり見えるのです。

たか つき
高くのぼった月でも

そらたか つき きいろ み たいきちゆう おお
 空高くのぼった月も、黄色く見えるときがあります。これは、大気中にふだんより多く
 すい き
 のちりや水じょう気がふくまれているときがあるからです。(監修 国司 真)

